

6. 都市計画に関する取り組み



1 都市計画マスタープラン (令和7年3月改定)

都市計画マスタープランは、都市計画法第18条の2に位置づけられた「市町村の都市計画に関する基本的な方針」のことで、住民に最も近い立場にある市町村が、創意工夫の下に住民の意見を反映し、まちづくりの具体性ある将来ビジョンを確立し、地区別のあるべき市街地像を示すとともに、地域別の整備課題に応じた整備方針、地域の都市生活、経済活動等を支える諸施設の計画等をきめ細かくかつ総合的に定めるものです。

2 全体構想

■ 将来都市像及び都市づくりの目標

将来都市像は、本市の最上位計画である小牧市まちづくり推進計画を踏まえるものとし、この将来都市像を実現するため、目指すべき都市づくりの目標を定めます。

将来都市像
魅力・活力創造都市 ~交流や元気を育み安全・安心に暮らし続けられるまち~

都市づくりの目標



● 中心拠点や地域拠点、名鉄小牧線沿線を中心に居住や都市機能が集積した集約型都市づくり

- ・小牧駅周辺から小牧山・市役所周辺にかけてまちなか居住が進み、広域的な都市機能が高度に集積した中心拠点の形成
- ・味岡駅周辺、桃花台センター地区及び藤島地区において日常的な都市機能が集積した地域拠点の形成
- ・日常生活に必要な生活サービスが身近に確保された暮らしやすい集約型の都市づくり

● 自然と調和しながら、新しい活力や多様な交流を育む産業基盤づくり

- ・高速道路や県営名古屋空港など、広域交通体系への恵まれたアクセス利便性や既存ストックを活かし自然と調和しながら、新しい活力や多様な交流を育む産業基盤づくり

● 自転車や徒歩、公共交通を重視した、車に過度に頼らなくても安全・安心に暮らせる生活圏づくり

- ・市民の豊かな暮らしを支える都市機能の誘導による拠点の形成にあわせ、自転車や徒歩、公共交通を重視した、車に過度に頼らなくても安全・安心に暮らせる生活圏づくり

● 小牧の自然や歴史を大切に、誇りの持てる都市環境・景観づくり

- ・市街地内の貴重な緑、北東部の丘陵地の広域的な緑、歴史的な環境を形づくる緑等の保全と調和や公共交通の利用促進によるCO2排出量抑制による環境負荷が少なく緑豊かで快適に暮らせる都市環境づくり
- ・小牧の自然や歴史を大切に、誇りの持てる都市環境・景観づくり

● 将来にわたり健全な都市運営が可能な持続発展を続ける都市づくり

- ・集約型の都市構造への転換とあわせて、都市運営にかかるコストや新たな費用負担を抑制し、将来にわたり健全な都市運営が可能な持続発展する都市づくり

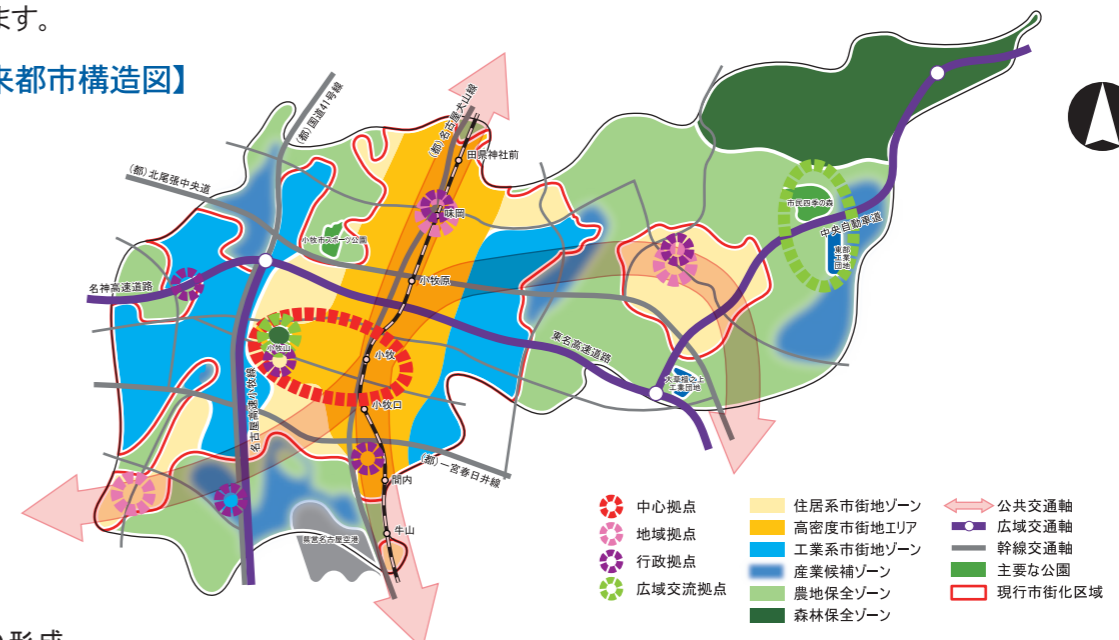
■ 将来都市構造 将来市街地の考え方

■ 住宅地: 目標年次に向けては、現行の市街化区域における人口定着を促進し、現行市街化調整区域での新たな住宅地の形成は図らないこととします。

■ 産業用地: 現行の市街化区域内の工業地域及び工業専用地域内にみられる一団のまとまりある都市的・低・未利用地の有効活用を図った上で不足する約54ha(公共用地含む)の産業用地を現行市街化調整区域において確保することとします。

■ 商業地: 小牧駅周辺を中心拠点や地域拠点等での商業地の形成を基本とし、郊外部での新たな大規模集客施設等の立地を抑制するとともに、現行市街化調整区域での新たな商業地の形成は図らないこととします。

【将来都市構造図】



拠点の形成

- 中心拠点
 - ・広域的な都市機能の集積・充実、まちなか居住の促進
 - ・交通結節点の機能・交流機能の強化、既存の地域資源を活かした交流人口の拡大や本市の玄関口にふさわしい景観の形成
- 地域拠点
 - ・商業、生活サービス、医療・福祉、行政等の都市機能の維持・誘導
 - ・味岡駅周辺及び桃花台センター地区については、地域住民の移動の利便性を支える交通結節点としての機能の維持・強化
- 行政拠点
 - ・市民のコミュニティ活動や文化活動支援、行政サービス機能の維持
- 広域交流拠点
 - ・小牧市の歴史や小牧山の自然・歴史を広く発信
 - ・小牧市民四季の森周辺では、集客・交流機能の強化・充実

土地利用の構成

- 住居系市街地ゾーン
 - ・良好な居住環境の維持・創出を図るとともに、拠点を中心とした都市機能の集積強化、市街地に広く立地する日常生活に必要な都市機能の維持等
- 高密度市街地エリア
 - ・住居系市街地ゾーンのうち、名鉄小牧線沿線においては、中高層住宅等の立地を適切に誘導するとともに、住宅や商業、生活サービス機能等による複合的な土地利用を図ります。
- 工業系市街地ゾーン
 - ・周辺の居住環境、良好な自然環境や営農環境等との調和に配慮しながら、工業・物流機能の維持・強化
- 産業候補ゾーン
 - ・今後、土地利用の熟度が高まった場合、工場や流通業務、先端産業型の新産業、研究開発等に関わる施設用地、観光交流施設用地の受け皿となる新たな産業地を形成
- 農地保全ゾーン
 - ・無秩序な市街化を抑制し、一団のまとまりある優良農地の保全
 - ・点在する既存の集落地については、地域コミュニティの維持や再生・活性化、生活環境の改善
- 森林保全ゾーン
 - ・森林を主体としたまとまりある緑地の保全とともに、良好な自然とのふれあい・交流、憩いの場としての活用

軸の形成

- <公共交通>
 - 南北鉄道軸
 - ・公共交通の軸として重要な役割を担う名鉄小牧線については、拠点間連携や名古屋・犬山方向の都市間移動需要に対応
 - 東西公共交通(バス)軸
 - ・東西市街地の連携強化に資する東西公共交通(バス)路線については、拠点間連携や春日井・岩倉方向の都市間移動需要に対応
- <道路交通>
 - 広域交通軸
 - ・名古屋都心及び東京・大阪方面を結ぶ東名・名神高速道路、中央自動車道、名古屋高速小牧線((都)名濃道路)により広域的な交通需要に対応するとともに、産業の発展や交流の拡大に向けた活用
 - 幹線交通軸
 - ・南北方向の(都)国道41号線、(都)名古屋犬山線、東西方向の(都)北尾張中央道、(都)一宮春日井線により都市間の交通や市内の各拠点間を結ぶ交通需要に対応